



ユーリ・バシュメット
©Oleg Nakhinkin



トン・コープマン
©Jaap van de Klomp

FOCUS

6.4 ㊥ 5 ㊦ 水戸室内管弦楽団第96 回定期演奏会 千変万化の表情を作るヴィオラ独奏と指揮 バシュメット、MCO と初の共演

文 篠田大基

3月末、小澤征爾総監督が演奏会後半で指揮をとった水戸室内管弦楽団(MCO)第95 回定期演奏会とサントリーホールでの東京公演が、熱狂的なスタンディングオベーションのなかで終演しました。演奏会をお聴きになった方は、前半で「指揮者なしのアンサンブル」、後半で「指揮者が率いるアンサンブル」という、MCO の「2 つの顔」を体験されたこととなります。指揮者なしでの質の高いアンサンブルは、メンバー一人ひとりが高い実力の持ち主であり、しかもメンバー同士が厚い信頼の「絆」で結ばれているからこそ成り立つものです。そしてこの「絆」の中心に立つ小澤征爾総監督が指揮者として加わったときのMCO の演奏については、もはや多言を要さないでしょう。

ただもうひとつ、より多くのお客様に体験していただきたいと思うMCO の演奏会があります。それは、小澤総監督以外の指揮者とMCO とがコラボレーションを行う演奏会です。最近では広上淳一氏やハインツ・ホリガー氏、ナタリー・シュトゥッツマン氏が客演していますが、毎回違った「化学反応」が起こり、それぞれに魅力のあるステージが生まれています。数日をかけて入念にリハーサルを行うMCO だからこそ、指揮者の個性が演奏に明白に表れるように思います。

6月4・5日(土・日)に開催する今回の水戸室内管弦楽団第96 回演奏会は、再び客演指揮者とのコラボレーションの回になります。お招きするのは、ロシアを代表するヴィオラ奏者で指揮者でもあるユーリ・バシュメット氏。ヴィオラ奏者としては、リヒテルやロストロポーヴィチ、クレーメルなどと名演を繰り広げてきた名手であり、指揮者としては、ロシア屈指の室内オーケストラである「モスクワ・ソロイスト合奏団」を組織して世界各地を公演して名声を博している方です。MCO とは今回初めて共演するバシュメット氏は、手練のMCO メンバーたちと、どんなステージを作り出すのでしょうか。どうぞご期待ください。

今回のプログラムは、バシュメット氏のヴィオラ独奏でお贈りする2 つの協奏曲と、バシュメット氏が指揮をする2 つの交響曲で構成されています。最初に演奏されるのは、ハイドンの交響曲第83 番 ト短調。「めんどり」というタイトルが付いていますが、この曲ほどタイトルで損をしている作品も珍しいのではないのでしょうか。これはハイドン自身の命名ではなく、後世の人々が沢山あるハイドンの交響曲を識別するために付けたニックネームにすぎません。第1 楽章の途中で登場する旋律がニワトリの鳴き声を思わせるということで、この名前

で呼ばれるようになったのですが、先入観にとらわれずに聴いていただければ、きっと印象は変わることでしょう！ 第1 楽章冒頭で提示されるスピード感のある主題などは、この曲と同じト短調で書かれたモーツァルトの2 つの交響曲のうちの交響曲第25 番(小ト短調)の第1 楽章(映画『アマデウス』で使われて有名)を思わせますし、第2 楽章は同じくモーツァルトの交響曲第40 番(大ト短調)の第2 楽章を連想させます。とても情感豊かな音楽なのです。

モーツァルトを連想させる音楽といえば、今回演奏されるもう一つの交響曲、シューベルトの交響曲第5 番も、第3 楽章のメヌエットがモーツァルトの交響曲第40 番の第3 楽章を意識して作られたのではないかという説のある作品です。ハイドンの第83 番とシューベルトの第5 番、どちらも規模の大きな作品ではありませんし、ハイドンにもシューベルトにももっと有名な作品があることは否定できませんが、だからといって聴かずにいるのは勿体ないほど、エレガントで均整美を備えた佳曲なのです。これらの作品をバシュメット氏がどのように“味付け”するのか、演奏会を楽しみに待ちましょう！

ところで、“味付け”という言葉を使いましたが、バシュメット氏の指揮の

“味付け”を一言で表すなら、「濃厚」という言葉に集約されるでしょう。たっぴりと強弱、緩急をつけて揺れ動く激情的な表現が持ち味です（これについては『モーストリー・クラシック』5月号の渡辺和彦氏の記事をご参照ください）。千変万化の豊かな表情は、バシュメット氏の故国ロシアの、特にチャイコフスキーをはじめとするロマン派の音楽の醍醐味でもあります。これは同時に、ヴィオラという楽器の特徴にも相通じるように思われます。

ヴァイオリンやチェロはどの楽器もほぼ変わらないサイズであるのに対して、ヴィオラの大きさは楽器によってまちまちです。それもそのはずで、もとをたざせば「ヴィオラ」という言葉は弦楽器の総称でした（ちなみに「ヴァイオリン」は「小さなヴァイオリン」に由来します）。オーケストラのなかでもヴィオラは、ヴァイオリンと一緒に奏でたり、チェロと一緒に奏でたり、あるいは他の楽器が演奏していない内声を補ったり、様々な役割を持ちます。だからこそ、バシュメット氏は次のように語るのです。

「ヴィオラがいったいどういうものなのか、はっきり答えられる人はいまい。定義づけできないのだ。本当に何なのだろう？ ヴィオラは音ひとつをとっても千差万別で、決まった「型」から作られているとは思えない。目を閉じて聴いてみると、時にはヴァイオリンの音、時にはチェロの音、と毎回少しずつ違って聴こえる。ヴィオラは謎めいたミステリアスな楽器。しかしその困難な面を克服し仲良くなると、ヴィオラはシンデレラのように姿を変えてみせる。」

（『バシュメット／夢の駅』小賀明子訳（アルファベータ、2005年）、86頁）

ヴァイオリンの音にもチェロの音にも、まるでシンデレラのように変身する楽器、ヴィオラ。その魅力は、今回、バシュメット氏がソリストとしてMCOと共演する2つの協奏曲でも、たっぴり堪能できるはず。パガニーニのヴィオラ協奏曲は、もともとヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、ギターのために作曲された室内楽曲の一つを後世にヴィオラ協奏曲として仕立て直した作品。協奏曲ではもちろん、原曲でも、ヴァイオリンの鬼才パガニーニの作品としては珍しく、

ヴィオラが主旋律を奏でてアンサンブルの主導権を握ります。この曲でのヴィオラは、音楽をリードするヴァイオリンのような音に聴こえるはず。他方、ブルッフの〈コル・ニドライ〉は、もともとチェロと管弦楽のための作品。ユダヤ教の聖歌にもとづく旋律をヴィオラがチェロのような深みのある音調で歌います。

千変万化の表情を作るバシュメット氏のヴィオラと指揮。MCOとのコラボレーションによって、どんな演奏が生み出されるのか、心待ちにしようではありませんか。

水戸室内管弦楽団 第96回定期演奏会

6/4 土 18:00 開場
18:30 開演
6/5 日 13:30 開場
14:00 開演

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM
全席指定 S席 7,000円、A席 5,500円
B席 4,000円

ユース（25歳以下）2,500円
出演 ユーリ・バシュメット（指揮・ヴィオラ独奏）
曲目

ハイドン：交響曲 第83番 ト短調 Hob.I-83
〈めんどり〉
パガニーニ：ヴィオラと弦楽のための協奏曲 イ短調
ブルッフ：コル・ニドライ（ヴィオラと弦楽のための）
シューベルト：交響曲 第5番 変ロ長調 D485

5.15 日 「茨城の名手・名歌手たち 第26回」出演者オーディション 未来の大舞台に向かって挑戦する茨城の音楽家たち

文 篠田大基

茨城県に関わりのある優れた音楽家を発掘し、広く紹介してゆくオーディション企画「茨城の名手・名歌手たち」は、水戸芸術館開館の年に始まり、今年で26回目となります。今までにオーディションを通過した音楽家は、のべ約300組を超え、現在、国内外で活躍している音楽家を数多く輩出しています。

過去の合格者には、第1回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位の小泉恵子さん（ソプラノ／第1回合格）、リース国際ピアノコンクール第3位の大崎結真さん（ピアノ／第3回合格）、第66回日本音楽コンクール第2位（1位なし）の清水良一さん（バリトン／第7回合格）、最近では、

第30回日本管打楽器コンクール第1位の箱崎由衣さん（クラリネット／第22回合格）、第6回アドルフ・サクス国際コンクールで第2位の上野耕平さん（サクソフォン／第24回合格）などが名を連ねています。

さあ、今年はどうな「名手」「名歌手」が現れるのでしょうか？ 5月15日（日）に開催するオーディションは入場無料で一般公開します。今回の審査部門は、管楽器・打楽器・声楽・器楽アンサンブル（出願は4月12日まで）。水戸出身の日本を代表する作曲家である池辺晋一郎さん、水戸室内管弦楽団楽団長の堀伝さん、水戸室内管弦楽団元オーボエ奏者の宮本文

昭さんなどが審査を務めます。合格者には10月1日（日）開催の演奏会（今回は宮本文昭さんが司会を務めます！）にご出演いただくほか、当館主催の他の演奏会に出演する可能性もここから開かれます。未来の大舞台に向かって挑戦する音楽家たちを、みんなで応援しましょう！

「茨城の名手・名歌手たち 第26回」 出演者オーディション

5/15 日 ※時間等、詳細は応募状況により後日決定

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM
入場無料

審査部門：管楽器、打楽器、声楽（以上ソロ）、器楽アンサンブル（2人～5人まで）

審査委員：池辺晋一郎、伊原直子、梶原征剛、東学、堀伝、宮本文昭（五十音順）

6.27 月 トン・コープマン オルガン・リサイタル 巨匠が奏でる“バロック・ヨーロッパ音楽地図”

トレードマークは眼鏡と口髭。ニコリほほえむ笑顔が魅力的な古楽の巨匠、トン・コープマン氏はオランダ生まれで御年71歳。現在活躍しているオルガン／チェンバロ奏者のなかで、間違いなく最も偉大な演奏家の一人に数えられる存在でしょう。同時に自身が創設したアムステルダム・バロック管弦楽団・合唱団を中心にした指揮活動も旺盛で、録音も数多く残しています。水戸芸術館では1995年にオルガン・リサイタルを開催、2003年には水戸室内管弦楽団第55回定期演奏会でオール・シューベルト・プログラムの指揮をとりました。そして今年の6月27日(月)、コープマン氏の3度目の水戸公演が実現します。水戸芸術館で21年ぶりのオルガン・リサイタルです！

コープマン氏のオルガン演奏の特徴といえば、まず、旋律に装飾を自在に加える即興味と、その装飾の華麗さ、そしてまた、疾走するようなスピード感や歯切れのよいリズム感が想起されます。一聴して「これはコープマンの演奏！」と分かるほど、とても独特で鮮烈な印象を与えるその演奏は、音楽を深く愛する大音楽家の心から湧き出る感興そのものなのでしょう。しかし、その自由闊達な演奏が、気まぐれから生まれたエキセントリックな解釈では決してないことも、ここに書き添えておかねばなりません。コープマン氏は膨大な文献を読み解き、そこで得た豊富な知識をもとにして、あの個性的な演奏解釈を作り上げているのです。コープマン氏が若い演奏家に向けて実践的なアドバイスをまとめた著書『トン・コープマンのバロック音楽講義』(音楽之友社、2010年)を読むと、彼の博覧強記ぶりがよく分かります。何しろ、彼が持つ音楽書や楽譜は個人コレクションとしてはヨーロッパ最大とも言われ、自宅の庭に図書館を建てて専属の司書に管理させるほどの規模なのです。そこに集められた17～18世紀の文献を

縦横に活用して語られるコープマン氏の音楽論は、深い洞察に満ちています。たとえば、『トン・コープマンのバロック音楽講義』の日本語版が刊行されるにあたって2009年に書き加えられた「補講」のなかで、彼は次のように述べています。

「2009年における「正統的(オーセンティック)」なバッハのオルガン作品の演奏は、存在するのでしょうか。私は、存在しないと考えます。バッハ自身ですら自分の作品を一生を通じて同じやり方で演奏したはずはありません。バッハは天才でした。そして、つねに進歩し続けていたのです。人間は進歩するもので、それは今も昔も変わりありません。彼は、自分自身の模倣ではなかったのです。……天才を模倣しようとしたところで、悲惨な結果に終わるだけです。私は、18世紀の資料を調べつくし、その知識と戯れながら、バッハのオルガン作品を優秀な同時代人が愛弟子のように演奏できるようにってはじめて、到達しうるぎりぎりのところまで行けるのではないかと思うのです。」

(『トン・コープマンのバロック音楽講義』
風間芳之訳、189-190頁)

この言葉は、まさにコープマン氏の個性的な演奏を思い起させ、また、彼自身がグスタフ・レオンハルトという彼とは全く違う謹厳な演奏スタイルの音楽家に師事していたこと、教師として沢山の優れた弟子たち(日本人ではバッハ・コレギウム・ジャパンの鈴木雅明氏など)を育ててきたことをも連想させます。そんなコープマン氏の演奏は、きっと、たとえ古い音楽であっても、聴き慣れた曲であっても知らない曲であっても、私たちに新鮮な驚きと感動を与え続けてくれるはずです。

今回の水戸芸術館公演は、コープマン氏が水戸芸術館のオルガンの性能や形状、特徴に合わせて曲を選び抜いたプログラムになりました。J. S. バッハに始

まり、ドイツ音楽(ブクステフーデやC. P. E. バッハの諸作品)、それからフランス(ダカン〈イエスがお生まれになったとき〉)、ポルトガル(作者不詳〈バッターラ・ファモサ〉)、スペイン(ブルーナ〈聖母マリアへの連祷にもとづくティエント〉)、そしてコープマン氏の故国オランダの大作曲家スヴェーリンクの作品を経由して、最後にまたJ. S. バッハに還るといふ、まるでバロック時代のヨーロッパを一望するかような「オルガン名曲選」となっています。そのなかには、今回の水戸公演の前後に日本各地で開催されるコープマン氏のリサイタルでは演奏されない曲が水戸にだけ入っている一方で、21年前にもコープマン氏が水戸芸術館で弾いた曲が加えられてもいます(1995年にリサイタルをお聴きになった方は、さて、覚えていらっしゃるでしょうか……?)。巨匠コープマン氏がパイプオルガンで奏でる“バロック・ヨーロッパ音楽地図”、どうぞご期待ください。



1995年のリサイタルの様子

トン・コープマン
オルガン・リサイタル

6/27 月 18:30 開場
19:00 開演

※当日は休館日ですが16:30に開館します。

会場 水戸芸術館エントランスホール

全席指定 A席3,500円 B席3,000円

ユース(25歳以下)1,000円

曲目

J. S. バッハ: 目覚めよと呼ぶ声あり BWV645

ブクステフーデ: フーガ 八長調 BuxWV174

スヴェーリンク: 大公の舞踏会 長調 SwWV319

J. S. バッハ: 小フーガト短調 BWV578 ほか

6.18 日at 17:30 高山三智子 ピアノ・リサイタル

コンピューターに人間が囲碁の勝負で負けたというニュースは、やはり、今後の世の中にどんな変化が起こるか分からない不安を感じさせます。人間が作ったものにSF映画の様に主導権を握られ、制御出来なくなる。何しろ学習をし続け、どんどん変化していくのです。恐ろしい。

ピアニストにとって、音楽作品を、どのように聴衆に伝えるのか？その作曲者の意図や時代やその他諸々を、どのように具現化させるのか？作曲者がどんな望みや想いを抱いていたのかを、譜面を頼りに、沢山の想像力を働かせつつ、演奏を創っていきます。演奏家は理論と感性と想像力で、作品を読み解きます。楽譜通りの表面的な演奏は、もうすでにコンピューターの方がずっと正確にできます。さらに、この頃は、

電氣的に合成された電子音に耳が慣れてしまっておりまして、機械的な面白さというのでしょうか、やたらと速く弾いて、どうだ！という音楽が多くなっています。音楽とは「音を楽しむ」という言葉通りに、音が生み出される世界に身を委ね、夢や希望、懐かしさ、温かさ、幸福感などが、新鮮な輝きとともに心にもたらされる芸術であると思っています。そして、演奏家とは本当に、詐欺師か魔術師だと思います。音の物語を聴衆の心に忍ばせて、琴線に触れさせ、夢見心地の幻想的な境地へと導く…。その陶酔感ときたら麻薬のようだとされます。しかし、本当に素晴らしい演奏でなければ、何も生み出すことはできません。いつでも素晴らしい演奏会の時は、聴衆の顔が喜びに輝いています。私の演奏会の時

にも、皆さまが幸せそうに微笑んでくださるように、現在、努力、奮闘中です。

アッ！皆様が楽しそうに、嬉しそうにしている姿が見える？最後に私のお話しをした為に、喜んでいらっしゃるのかしら?? キャー困る。

高山三智子



最近の公演から



2016.3.6 Duo Reflet ピアノ・アンサンブルの世界 Vol. 2

水戸を中心に活動する2人のピアニスト・佐藤靖子さんと吉成純子さんのユニット「Duo Reflet (デュオ・レフレ)」による当館2回目のリサイタル。1曲ごとにパート(演奏するピアノ)を交替するスタイルは前回(2012年)のリサイタルと同様。それに加えて作曲家や作品の知名度にとらわれない個性的な選曲に、お二人らしさが現れていました。今回は特にイギリス、アルメニア、中南米諸国の民族音楽がもたらした、独特なアクセントや節回しの味わいある音楽が並びました。息のあったアンサンブルは、このリサイタルの副題のとおり、まさに「煌めく音の融合と対話」。アンコールはプーランク作曲「仮面舞踏会」の終曲によるカプリッチョ。《篠田》アンケートから■息がぴったり合っていて素晴らしい演奏でした。日頃からよく練習されているのがよく分かります。(那珂市の方) ■大変興味深いプログラムで楽しめました。二人の演奏家も素晴らしかったです。(東京都の方)

2016.3.12 市民のためのオルガン講座 実技レッスン受講生による発表会

昨年9月に開講した2015年度「市民のためのオルガン講座」。その実技レッスンコースで半年間オルガンの奏法を学んだ5名の受講生による発表会を行いました。このコースでは、室住素子先生によるご指導のもと、上半期はバッハやバッハヘルベルの共通課題でオルガンの基礎を学び、下半期はそれぞれが発表会の曲を選んで練習を重ねてきました。出演したのは井上葵愛さん(小6)、高木もも花さん(中3)、そして坂本志乃二さん、江田朋子さん、堀川こずえさん。この5人に共通していたのは「パイプオルガンを弾けるなんて、一生に一度のチャンス！」という熱意。自宅での練習にも工夫をこらし、半年間の成果を、晴れやかに披露してくださいました。発表会の中盤では「一回体験コース」に参加していただいた野地愛由美さんと小橋昌樹さんが登場。一時間のオルガン体験について、魅力的にお話くださいました。この講座、春に新規受講生を募集します！皆様ぜひふっってご応募ください。《高巣》アンケートから

■身近にパイプオルガンを感じる良い機会となりました。娘も、大きくなったら弾いてみたいと思ったようです。(水戸市の方) ■いつも CD で聴いている曲をパイプオルガンの生演奏で聴くことができ感動しました。機会があればまた来たいです。(笠間市の方)

2016.3.19

**埴美里 サクソフォン・リサイタル
～ジュリアン・プティ氏を迎えて
～初来日記念公演**

常陸太田市出身のサクソフォニスト・埴美里さんによるリサイタル。今回は、師であり国際的に活躍しているフランス人サクソフォニスト、ジュリアン・プティ氏との共演が実現し、同じく門下生の大西智氏さん、若手ピアニストの酒井有彩さんとともに、様々な編成で演奏が披露されました。ドビュッシー〈牧神の午後への前奏曲〉などで聴かせた埴美さんの艶やかな音色と深い音楽性、ヴィラ・ロボス〈ファンタジア〉やクレズマー音楽で魅せた、プティさんの驚くべき表現力、そしてサン＝サーンス〈デンマークとロシアの歌による奇想曲〉などで息ぴったり披露された豊かなアンサンブルに、聴衆から大きな拍手が贈られました。アンコールはポッパー作曲〈レクイエム〉。《高嶺》アンケートから■ソプラノサクソの音色がこんなに温かくて優しくて繊細なものだとは知りませんでした。(常陸太田市の方) ■美里さんの演奏を生ではじめて聴けて大変感動いたしました。音楽を“耳で聴く”のではなく“身体で全身で聴く”という体験を始めてしたような気がします。ジュリアンさんの演奏も最高の音色でした。(水戸市：Y.H.さん)

2016.3.20

M.L.R. & 水戸第二高等学校コーラス部コンサート

暗い舞台の上でミシュキニス〈アヴェ・マリス・ステラ〉の合唱が開演を告げ、舞台が明るくなるとビートの効いたチルコット〈小ジャズ・ミサ曲〉が歯切れよく響きました。合唱コンクールで優秀な成績を誇る水戸第二高校コーラス部がOG合唱団の一つM.L.R. (むー・るー・りー)と合同で水戸芸術館公演を行うのは今回が2回目。寺門芳子先生の指導のもとで練習を重ねた難曲、鈴木輝昭〈妖精の距離〉は圧巻の演奏。後半のフォーレ〈レクイエム〉では、室住素子さんのオルガンと小林由佳さんのピアノとが美しく溶け合って、厳かな合唱を彩りました。アンコールは松下耕〈静かな雨の夜に〉。《篠田》アンケートから■高校生がこんなにすばらしいものを作り上げるなんて!!感動しました。何かに打ちこむ人、一生懸命やる人はかっこいいし、美しいですね。(水戸市の方) ■

目を閉じてじっと聴いていると、本当に女性らしい、透明感のある、やわらかさのある、また時には、迫力のある、本物の音楽に出会った気がしました!! (福島県の方)

2016.3.25,27,29

**水戸室内管弦楽団
第95回定期演奏会／東京公演**

水戸芸術館開館25周年記念事業の掉尾を飾る演奏会。小澤征爾総監督とも親交の深い、水戸室内管弦楽団(MCO)メンバーで元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のソロ・ティンパニ奏者であったローランド・アルトマンさんの訃報が、2月に届いた。演奏会では、その死を悼み、プログラムに先立って、モーツァルトの〈ディヴェルティメント〉K.136の第2楽章を小澤総監督の指揮で、献奏した。演奏会の前半は指揮者なしで、シベリウスの『クオレマ』作品44より〈悲しきワルツ〉とMCOのメンバーであるリカルド・モラレスさんの独奏でモーツァルトの〈クラリネット協奏曲〉K.622が取り上げられた。演奏会の後半は、小澤征爾総監督指揮でベートーヴェンの〈交響曲 第5番〉。「今度は是非、5番をやるう!」と、小澤総監督の背を押したのが、他ならぬアルトマンさんであった。小澤総監督は、これほど反応のよいオーケストラは世界中で他にはないと絶賛するMCOのメンバーたちと一体となって、この偉大な交響曲の目指す高みへと飛翔した。

3月26日と28日には、吹奏楽セミナーを開催。26日は水戸市内の小学校(笠原小、常盤小、三の丸小、千波小)の吹奏楽部、金管バンド部、28日は大成女子高等学校と水戸女子高等学校の吹奏楽部の皆さんにご参加いただいた。講師は、ラデク・バボラークさん他MCOが誇る管楽器奏者たちが務めた。26日のセミナーでは、小澤総監督も舞台袖に姿を現し、子供たちの演奏に耳を傾けた。

3月29日には、サントリホールの大ホールで東京公演を開催。天皇・皇后両陛下のご臨席を賜った。〈第5番〉の演奏後には、水戸でも同様であったが、満場の客席から十数分におよぶスタンディング・オベーションを受け、熱狂の中での幕引きとなった。《中村》アンケートから■MCOを聴けることが茨城に住む誇りです!(ひたちなか市の方) ■ローランド・アルトマン氏の訃報は残念でした。ティンパニの活躍する〈第5〉では見せ場が多かっただけ彼としても心残りであったでしょう。(小澤さんの)まさに渾身のタクトという感じで、気分が高揚しました。(水戸市T.M.さん) ■前日(3/26)は、小学生の娘がセミナーでお世話になりました。今日は夫婦で来場しました。家族で音楽のすばらしさに触れることができました。幸せな時間をありがとうございました。(水戸市の方)



1 : Duo Reflet ピアノ・アンサンブルの世界 Vol. 2
2 : 市民のためのオルガン講座
実技レッスン受講生による発表会
3 : 埴美里 サクソフォン・リサイタル
4 : M.L.R. & 水戸第二高等学校コーラス部コンサート
5-8 : 水戸室内管弦楽団 第95回定期演奏会／東京公演
／吹奏楽セミナー

2016年度「市民のためのオルガン講座」受講生募集!

オルガニスト・室住素子さんによる丁寧なご指導のもと、国産最大級のパイプオルガンを弾いてみませんか?詳しくはチラシや当館ウェブサイトをご覧ください。
 [コースと定員] ■実技レッスン(定員5名) ■一回体験(定員12組)
 [スケジュール] ◎オリエンテーション 7/23(土) 18:00 ※Bコースの方は参加不要
 ◎実技レッスン日程(全12回) 9/5(月)、10/3(月)、10/11(火)、10/31(月)、11/21(月)、11/28(月)、12/19(月) 2017年 1/23(月)、1/30(月)、2/13(月)、2/20(月)、3/13(月)
 ◎発表会 2017年 3/19(日) 13:00~
 [受講料] ■実技レッスン 40,000円 ■一回体験 2,000円
 [申込] 6/4(土)
 [提出資料] ①申込用紙 ②82円切手を貼った定形サイズの返信用封筒
 ※申込用紙は下記の方法で入手可能
 ①水戸芸術館エントランスホール内チケットカウンターにて入手 ②芸術館ホームページからダウンロード ③82円切手を貼った定形サイズの返信用封筒にご住所・お名前を明記し、下記宛先に郵送
 [申込先・お問合せ]
 水戸芸術館音楽部門「市民のためのオルガン講座」係
 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 ☎029-227-8118

《第九》コーラス参加者募集!

水戸芸術館では、年末に開催する「水戸の街に響け! 300人の《第九》」のコーラス参加者を募集いたします。詳しくは、応募要項をご覧ください。
 [公演日] 2016年12月11(日)
 [演奏曲] ベートーヴェン(交響曲第9番) 第4楽章
 [応募資格] 9月~12月に水戸芸術館で行う練習に参加できる方(経験不問)
 [参加料] 2,000円
 [応募締切] 7月31(日)
 [応募要項の請求方法] ①水戸芸術館窓口にて直接入手 ②水戸芸術館ホームページからダウンロード ③82円切手を貼付し返信先を記入した定形封筒を同封の上、下記宛先に郵送 ※水戸芸術館ホームページにてオンライン申込も受け付けています。
 [お問い合わせ]
 水戸芸術館音楽部門《第九》係(担当:関根、篠田)
 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

チケット・インフォメーション

《4月30日(土)発売分》

■ちょっとお昼にクラシック「通崎睦美の木琴デイズ」
 7/23(土) 13:30開演
 料金【全席指定】¥1,500(1ドリンク付き)

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし
 中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席
 ◎ちょっとお昼にクラシック IL DEVU(イル・デーヴ)
 ………………4/30(土) 中央×、左右・裏○
 ◎水戸室内管弦楽団 第96回定期演奏会
 (指揮・ヴィオラ:ユーリ・バシュメット)
 ………………6/4(土) 中央○、左右・裏○
 ………………6/5(日) 中央○、左右・裏○
 ◎高山三智子 ピアノ・リサイタル……………6/18(土) 自由席○
 ◎トン・コープマン オルガン・リサイタル……………6/27(月) 1F○、2F△
 ※4/6(水)現在の状況です。
 ※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な5・6月のスケジュール

コンサートホール ATM

■「茨城の名手・名歌手たち 第26回」出演者オーディション
 5/15(日) 時間未定(4月下旬決定) 入場無料

■水戸室内管弦楽団 第96回定期演奏会

(指揮・ヴィオラ:ユーリ・バシュメット)
 6/4(土) 18:30開演、6/5(日) 14:00開演
 料金【全席指定】S席¥7,000/A席¥5,500/B席¥4,000/
 ユース(25歳以下)¥2,500

■高山三智子 ピアノ・リサイタル 心音の響き

6/18(土) 17:30開演 料金【全席自由】¥3,500

■《第48回 水戸市芸術祭》水戸市合唱祭

6/26(日) 13:00開演 入場無料【全席自由】

エントランスホール

■プロムナード・コンサート EXTRA (入場無料)

5/1(日) 瀧本真己(ソプラノ)、柳川瑞季(ピアノ)
 12:00~13:30(各回30分程度)

■パイプオルガン プロムナード・コンサート (入場無料)

□5/5(木・祝)《子どもの日スペシャル》
 山田由希子、山田文子(メゾ・ソプラノ) 13:30~(45分程度)

□5/14(土) 原田真侑、22(日) 野美山由加里、

6/11(土) 野田優子、25(土) 千田寧子

各日12:00~13:30(各回30分程度)

■トン・コープマン オルガン・リサイタル

6/27(月) 19:00開演 ※当日は休館日ですが、演奏会のため16:30より開館します。
 料金【全席指定】A席¥3,500/B席¥3,000/ユース(25歳以下)¥1,000

ACM 劇場

■ゆうくとマツさんの『くものすおやぶんととりものちよう』

5/3(火・祝)、5(木・祝)、8(日) 各日11:00開演、
 5/4(水・祝) 11:00/14:00開演、5/7(土) 14:00開演
 料金【全席指定】子ども(3歳~小学6年生)¥1,000/大人¥2,000

■伝統芸能のスズメ【落語】柳家落語 三人会 さん喬・喬太郎・さん助

6/4(土) 13:00開演
 料金【全席指定】S席¥3,500/A席¥3,000/B席¥2,500

■《第48回 水戸市芸術祭》

□三曲各流演奏会 6/12(日) 13:00開演 入場無料【全席自由】

□謡と仕舞の会 6/26(日) 10:00開演 入場無料【全席自由】

現代美術ギャラリー

■田中功起 共にいることの可能性、その試み

2/20(土)~5/15(日) 9:30~18:00 ※入場は17:30まで
 [休館日] 月曜日

[入場料] 一般¥800/前売り・団体(20名以上)¥600

※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

■クリテリオム92 土屋紳一 ※料金は展覧会の入場料に含まれます。

■《第48回 水戸市芸術祭》入場無料

□いけばな展 6/3(金)~5(日) 9:30~18:00

※入場は17:30まで。ただし6/5(日)は入場16:30まで、17:00閉場

□美術展覧会

[第1期](日本画・洋画・彫刻・工芸美術)6/12(日)~24(金)9:30~18:00

※入場は17:30まで ※ただし6/13(月)、20(月)は休館

[第2期](書・写真・デザイン・インスタレーション)6/29(水)~7/10(日)

9:30~18:00 ※入場は17:30まで ※ただし7/4(月)は休館

チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター TEL 029-231-8000
 営業時間:9:30~18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

水戸芸術館音楽部門 TEL 029-227-8118

ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>

公式ブログ <http://concerthallatm.blog101.fc2.com/>

ATM 便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場

twitter @ConcertHall_ATM

編集後記

今年のF1がBSでは放送されないことが発覚し、一時はF1難民となりましたが、この度めでたくスカパーに加入、第二戦には間に合いました。ライブだし、CMは無いし…こちらの世界は素晴らしいですね。(て)さん!(り)

まだ桜も咲き始めの頃、自転車で通学路の確認をしている親子を見かけた。若干大きめでピカピカの自転車がとても初々しい。新しい学校、職場、土地、それぞれ新しく始まる新年度の空気感に感化される春の日でした。(稲)

子どもが生まれてから、朝に観るテレビが「おかあさんといっしょ」という日が多くなった。おかげで(ブンバ・ポーン!) (体操の歌)が頭から離れないのだ。ふとしたときにあれが脳内で再生される。ちょっと困る。(篠)

今年桜の開花が早かったはずだが、先日のMCO東京公演の時、バスの窓からのぞく千鳥ヶ淵のあたりはまだまだ。水戸もいつ見頃になるか予想できない肌寒い日が続いています。早く薄桃色の花の下で唐揚げが食べたい。(て)

賀毛針で有名な目細八郎兵衛商店を訪れたとき。ばらばらと小銭を床に落としてしまった客に、店主は笑って言った。「こりゃあ縁起がいいお客様だ!」伝統の美と技、そして一瞬で場を和ませる粋な人情にふれた雪の日。(樹)

日本のステージ・マネージャーの草分けで、MCOの創設から2011年までお世話になった宮崎隆男さん。88歳の今もお元気で、先日のサントリーホール公演に来て下さった。そのお姿が有るだけで、舞台裏は安心感に包まれる。(中)

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]
 2016年5+6月発行 第208号
 編集発行:水戸芸術館音楽部門
 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
 TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130
 E-MAIL ankmr@arttowermito.or.jp
 URL <http://arttowermito.or.jp/>
 編集:水戸芸術館音楽部門(五十音順) / 石井亮子
 稲田枝里子 篠田大基 関根哲也 高巢真樹 中村晃
 デザイン:藤澤絢子
 印刷所:山三印刷株式会社